

福井歯科専門学校

39期生1年生

シラバス

講義要項

実務経験のある教員等による授業科目の概要

科目	講師名	実務経験	授業の概要
生物学	保科 英人	有 大学教授	大学での実務経験を活かし、生物学の様々な理論を幅広く理解できるように指導している
化学	入江 聡	有 大学准教授	大学での実務経験を活かし、実際に扱う薬品や材料など現場での実務に役立つ内容が幅広く理解できるように指導している
医療心理学	山田 知子	有 臨床心理士	臨床心理士業務に従事している実務経験を活かし、医療現場に必要なコミュニケーションが習得できるように指導している
教育学	龍野 篤朗	有 元高校教師	過去に高校教師として従事した経験を活かし、幅広く現代の教育に関わる諸問題について理解できるように指導している
英語	Joao Kieffer	有 英会話講師	英会話教室において英会話指導業務に従事した実務経験を活かし、グローバル化に対応できる英語力が身につけられるように指導している
国語表現法	前田 安信	有 元高校教師	過去に高校教師として従事した経験を活かし、「読む・書く・話す」の3つの領域にわたる基本的な日本語表現能力が身につけられるように指導している
接遇作法・語法①	上村 泰子	有 接遇インストラクター	接遇インストラクターとして従事している実務経験を活かし、一般的常識やマナーを身につけられるように指導している
コミュニケーション学	吉田 恵美	無	コミュニケーション能力を身につける
解剖学	鈴木 清史	有 歯科医師	歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、人体の構造を系統的に理解できるように指導している
生理学	樋口 隆	有 医師	病院において診療業務に従事した実務経験を活かし、身体の構成・はたらきとその仕組みが理解できるように指導している
生化学	森 健太郎	有 大学助教・技術士補	大学での実務経験を活かし、生体における化学反応の相互関連を理解できるように指導している
組織発生学	嶋田 済	有 歯科医師	歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、全身的理解を前提として口腔および歯の構造と発生が理解できるように指導している
口腔解剖学①	佐野 和生	有 歯科医師	口腔保健センターにおいて歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯の種類、歯の形態、方向用語等の知識が習得できるよう指導している
歯牙解剖学	市波 仙光	有 歯科医師	歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯の種類、歯の形態、方向用語等の知識が習得できるよう指導している
口腔生理学	鈴木 孝雄	有 歯科医師	歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、口腔の構成・はたらきをその仕組みが理解できるように指導している
微生物学	松浦 宙	有 歯科医師	歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、口腔の2大疾患であるう蝕と歯周病についての病原体の特徴を理解できるように指導している
薬理学	津田 真弘	有 大学教授・薬剤師	大病院において薬剤師業務に従事している実務経験を活かし、薬理学の基本的知識とともに薬物の効力発現を理論的に理解できるように指導している
病理学	小林 淳一 水谷 大樹	有 歯科医師	歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、全身の病気の本態を明らかにし、病気の結果がどのようになるかについて理解できるように指導している
口腔衛生学・統計①	中廣 剛士 吉田 恵美	有 歯科医師 歯科衛生士	歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、個人および集団に対する歯科予防処置、歯科保健指導を実施するための口腔保健に関する基礎的な知識を習得できるように指導している
衛生学・公衆衛生学①	坂部 敬子	有 大学助教 看護師・保健師	大学での実務経験を活かし、社会科学的な知識と技術を習得し、歯科保健医療の領域で公衆衛生の素養が身につけられるよう指導している
歯科衛生士概論①	春木 かおり 吉田 恵美	有 歯科衛生士	歯科医院において歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、業務内容、倫理、チーム医療などの連携を習得できるように指導している
保存修復学	鈴木 康紘	有 歯科医師	歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯科衛生士にとって必要な保存修復学の知識・技能を習得することにより、臨床に結びつけられるよう指導している
歯周療法学①	瀧波 宏至	有 歯科医師	歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯周病学の基礎が習得できるように指導している
口腔外科学①	佐野 和生	有 歯科医師	口腔保健センターにおいて歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、口腔外科疾患の基礎を理解できるよう指導している
歯科予防処置実習①	上村 愛実 深川 さやか	有 歯科衛生士	歯科医院において歯科衛生士業務に従事している実務経験を活かし、歯・口腔の健康を維持・増進するために必要な専門知識・技術・態度が習得できるように指導している
歯科保健指導総論	春木 かおり	有 歯科衛生士	歯科医院において歯科衛生士業務に従事している実務経験を活かし、ライフステージに対応した歯科衛生介入に必要な知識を習得できるように指導している
歯科保健指導実習①	吉田 恵美	有 歯科衛生士	歯科医院において歯科衛生士業務に従事している実務経験を活かし、自己の健康管理をするために必要な知識・態度が習得できるように指導している
栄養学	北山 富士子	有 管理栄養士	総合病院において管理栄養士業務に従事していた実務経験を活かし、日本人の食事摂取基準の意味と意義を理解し、ひとりひとりに適した推定エネルギー必要量の求め方が習得できるように指導している
歯科材料学	岡田 好広	有 歯科医師	歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯科材料の基礎知識を習得できるよう指導している
歯科診療補助基礎	深川 さやか 上村 愛実	有 歯科衛生士	歯科医院において歯科衛生士業務に従事している実務経験を活かし、歯科衛生士の業務内容を理解し、必要な基本的知識を習得できるように指導している
歯科診療補助実習①	上村 愛実 深川 さやか 吉田 恵美 春木 かおり	有 歯科衛生士	歯科医院において歯科衛生士業務に従事している実務経験を活かし、歯科診療補助を実践するために必要となる「原則的行動パターン」を確立できるよう基礎的な知識・技術を指導している
臨床検査	川崎 哲子	有 臨床検査技師	臨床検査技師として従事している実務経験を活かし、歯科衛生士として病態を理解し検査データの表す意味、正常値を理解できるように指導している
感染予防学	佐野 和生 西村 一美 廣澤 佑太	有 歯科医師 看護師	口腔保健センターや病院において業務に従事している実務経験を活かし、感染症を理解した上で感染対策・医療関連感染対策が習得できるように指導している
食事支援	北山 富士子	有 管理栄養士	総合病院において管理栄養士業務に従事していた実務経験を活かし、実習や試食を通して対象者の身体状況や口腔機能の理解が深められるように指導している

科目名	生物学	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	保科 英人	授業形態	講義	授業回数	8
到達目標	生命の誕生の歴史を理解する。 細胞、特に動物細胞の構造と、細胞小器官の機能を理解する。 細胞分裂と遺伝の基礎を理解する。 生物の恒常性の基礎を理解する。 生態系の基礎を理解する。				
学習上の注意事項	生物学の様々な理論を幅広く学ぶこと				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 生物学				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	I 編 生命 生命と細胞の進化
2	II 編 組織と細胞 生命の進化と多様性
3	細胞の構造
4	神経細胞と情報伝達
5	ヒトの組織とその仕組み
6	III 編 生命の連続 無性生殖と有性生殖
7	発生と細胞分化
8	IV 編 環境と動物の反応

科目名	化学	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	入江 聡	授業形態	講義	授業回数	7
到達目標	<p>化学は、物質の性質、構造、変化に関する学問であり、歯科衛生士は、まさに医療の現場で種々雑多な歯科材料など物質を日々扱う立場にあり、化学の知識が必要不可欠です。</p> <p>今回用いる教科書は、歯科衛生士としての化学の知識を整理して学ぶために選択しました。</p> <p>各章には、化学の基本事項のみならず、実際に扱う薬品や材料など現場での実務に役立つ内容や生化学などの専門教科の基礎知識となる部分も数多く含まれています。これらを系統的に学ぶことで、歯科衛生士としての基礎を固めて下さい。以下学習目標を列記します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質の成り立ち（原子の構造や化学結合など）を理解している。 ・気体の性質を説明できる。 ・気体や水溶液の濃度の計算ができる。 ・歯科材料に用いられる（用いられてきた）金属の酸化還元特性を理解している。 ・生体に関係のある、あるいは歯科で用いられる有機化合物や無機化合物を知っている。 				
学習上の注意事項	<p>教科書をよく読んで下さい。</p> <p>時々宿題を出します。自宅でじっくり復習を兼ねて考えてみてください。</p> <p>結構板書をしますので、授業のどこが大切なのかを予測しながら、ノートはしっかりとって下さい。</p>				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
教科書	歯科衛生学シリーズ 化学				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	第1章 物質とは何だろう
2	第2章 気体について知ろう
3	第3章 物質が水に溶けるとは（水溶液の濃さの出し方、希薄水溶液の示す不思議な性質・身の回りにはコロイドがいっぱい）
4	第3章 酸とアルカリの水溶液 第4章 酸化とは 還元とは
5	第5章 化学反応では原子の組換えが起こっている
6	第6章 有機化合物とは何だろう

7	実習
8	実習

科目名	医療心理学	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	山田 知子	授業形態	講義	授業回数	8
到達目標	<p>現場で活躍していくためには、手技の習得はもちろんのこと、患者さんの全身状態やその気持ちにも考慮しながら対応していく必要があります。また、1人の患者さんにはいろいろな人々が関わっており、これらの人々が連携し、患者さんにとってよりよい支援ができるような歯科衛生士としての視点と能力が求められています。</p> <p>この授業では、ヒトの行動と心理について学び、各自が自分の気持ちや考えを相手に伝え、相手の気持ちや考えを理解できるようになることを授業の目標とします。</p> <p>そして、授業で学んだことを、患者さんやその家族との関わりの中、さらに職場での人間関係の中で活かしていくことを期待します。</p>				
学習上の注意事項	テキストは使用しますが、必ずしもテキスト通りには進めないこともあります。				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 心理学				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	対人認知・印象形成について／人と関わる心理
2	学ぶ・覚えるところ／認知症について
3	こころの健康／メンタルヘルス・ストレスについて
4	発達するところ (1) ／発達障害を理解する
5	発達するところ (2) ／自分の性格傾向を知る
6	他者と自分／イメージを用いたグループワーク
7	心理臨床・心理療法について／表現療法体験

8

「聞く」と「聴く」／カウンセリング・マインド

科目名	教育学	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	龍野 篤朗	授業形態	講義	授業回数	8
到達目標	<p>教育学の本質し、現代の教育に関わる諸問題についての知見を広める。</p> <p>教育は人間生活を基盤に関わってくるものであり、職場や社会生活の中でも必要なものであることを認識をする。</p> <p>将来、親となる可能性がある一人の人間として、自己の歩んできた道のを改めてとらえ返し、今の自分を認識する。</p> <p>歯科衛生士など職業を問わず、1人の人間、1人の大人である以上、自分も教育を担うものであり、自己を育てることを自覚し、それを誇りとする。</p>				
学習上の注意事項	<p>自分なりの言葉や考えを大切に、それを的確に表現できるように努める。</p> <p>自分とはむしろ異なる意見にこそ耳を傾け、その違いから学びを得ようとする姿勢で臨むこと。</p>				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他（レポート等）				
教科書	自分の弱さをいとおしむ－臨床教育学へのいざない－				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	イントロダクション － 大阪事件を考える 教育と教育学の目的、概論 生涯学習の視点をもって
2	人間理解1－弱者の視点から － 相談とは；浮き輪と応援団
3	人間理解2－人間と動物の違い － 愛情について
4	人間理解3－愛着障害RAD；母と子（家族の中で）；自立と依存
5	人間理解4－障害について（発達障害）－自己責任と公的責任
6	自己の教育1－他者とのめぐり逢い；DVD15分間の奇跡；オーサーシップ
7	自己の教育2－子どもの誕生と成長；自己を振り返ると
8	夕鶴；男女の愛と運命；生きる上で考えること



科目名	英語	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	オービット外語学院講師	授業形態	講義	授業回数	8
到達目標	基本的な文法を思い出し、それを生かした日常生活用語を身につけ応用していき、簡単な英語でも「英会話ができる」という自信をもち、コミュニケーションの楽しさを知る。				
学習上の注意 事項	中学英語を振り返り、基本的な文法や時制に気をつけながら話す。 英会話で気持ちが伝わることを楽しみ自信をつける。				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他（レポート等）				
教科書					
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	自己紹介
2	単数・複数・冠詞の確認
3	B e 動詞を思い出す
4	一般動詞を思い出す
5	「現在」「過去」「未来」を使い分ける
6	助動詞を使う
7	仮定法を使う
8	自分の意見を述べる



科目名	国語表現法	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	前田 安信	授業形態	講義	授業回数	8
到達目標	「読む・書く・話す」の3つの領域にわたる基本的な日本語表現能力を身につける。 報告文（レポート）作成方法等日本語表現の技術を習得する。				
学習上の注意事項					
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他（ ） 筆記試験、レポート、出席点等を総合して判断する				
教科書					
教材	配布プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	表記Ⅰ（送り仮名、仮名遣い）
2	表記Ⅱ（読点の打ち方他）
3	実用文の書き方Ⅰ（手紙等）
4	実用文の書き方Ⅱ（志望動機等）
5	敬語の用法Ⅰ
6	敬語の用法Ⅱ
7	語句の練習（故事成語、慣用句、ことわざ等）
8	まとめ

科目名	接遇作法・話法①	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	上村 泰子	授業形態	講義	授業回数	8
到達目標	一般的常識やマナーを身につける				
学習上の注意事項					
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
教科書	最新 ビジネスマナーの基本				
教材					

授業計画	
回数	授業内容
1	接遇の重要性
2	一般教養、挨拶、身だしなみ コミュニケーションテクニック 表情
3	一般教養、挨拶、身だしなみ 話し方のマナー
4	コミュニケーションテクニック 敬語の種類と活用 患者心理と接遇について
5	コミュニケーションテクニック 敬語使い実習 対人技能 歯科医院におけるロールプレイ準備
6	歯科医院におけるロールプレイ実習
7	お付き合いのマナー 歯科医院におけるロールプレイ実習
8	まとめ



科目名	コミュニケーション学	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	吉田 恵美	授業形態	講義	授業回数	
到達目標	コミュニケーション能力を身につける				
学習上の注意事項	なるべく欠席しないようにすること				
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他（出席・レポート）				
教科書					
教材					

授業計画	
回数	授業内容
1	歯科衛生士の業務 歯科衛生士とは 基本的態度・対象とする人々への対応
2	SNSの取り扱い
3	相互理解訓練①
4	相互理解訓練②
5	相互理解訓練③
6	歯科医院で勤務している歯科衛生士を招いて 歯科衛生士について 学校生活について
7	セミナー実習
8	セミナー実習

科目名	解剖学	年次	1	単位	1
				時間数	24
講師名	鈴木 清史	授業形態	講義	授業回数	6
到達目標	<p>人体を構成する器官の構造を学習し、人体の構造を系統別に理解する。</p> <p>人体の部位を解剖学的に説明する。</p> <p>人体の方向用語を江氏角に用いることができる。</p> <p>人体を構成する機関の構成と機能を説明できる。</p> <p>口腔周囲の器官の構成と機能を説明できる。</p>				
学習上の注意事項	<p>人体の正常な形態と構造について学ぶことにより、各器官の生物学的つながりを見直し、系統づけましょう。教科書等の図を参考に構造をイメージして学習すること。</p>				
評価方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()</p>				
教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学</p>				
教材	<p>プリント</p>				

授業計画	
回数	授業内容
1	解剖学とは 人体の外形と区分 各器官の位置関係をあらわす方向用語について 骨格系、骨の機能・構造、連結様式について
2	骨格系 身体各部の骨の構成について（頭蓋骨、体幹骨等） 咀嚼や顎運動に関連する骨と筋について
3	筋系 筋の構造、分類 身体各部の筋について 頭部の筋、頸部の筋（舌骨上筋、舌骨下筋） その他の筋について内臓学 消化器系の構成、構造について
4	内臓学 呼吸器系の構成、構造 泌尿器系の構成、生殖器系の構成、内分泌系の構成 分泌されるホルモンについて
5	脈管系 血管系の構成、体循環と肺循環の2系統について、心臓の構造と分布する血管、大動脈 の枝の名称と分布域について、静脈系の構成、胎児の循環系、リンパ系の構成
6	神経学、神経系の構成、中枢神経系の構成、末梢神経系の構成（脳神経の種類、走行、支配領 域）感覚器、各感覚器の構造



科目名	生理学	年次	1	単位	1
				時間数	24
講師名	樋口 隆	授業形態	講義	授業回数	12
到達目標	病態学、治療学を修得する上で必要となるヒトの生理機能について理解する。 歯科医療、口腔保健現場において重要な生理学に対する知識および理論を理解する。 歯科医療現場で多く遭遇する病態生理とその対処法について説明できる。				
学習上の注意事項	細部にとらわれることなく、ポイントを絞り生理学の全体像を把握すること。 教科書の口絵や図により視覚的に学習すること				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	生理学とは 細胞の構造と機能
2	筋と運動
3	消化・吸収1
4	消化・吸収2
5	循環1
6	循環2
7	神経系1
8	神経系2
9	感覚
10	呼吸
11	腎機能と排尿

12

内分泌、体温

--

科目名	生化学	年次	1	単位	1
				時間数	24
講師名	森 健太郎	授業形態	講義	授業回数	12
到達目標	<p>人体体を構成している成分の構造と機能を説明できる。</p> <p>エネルギー代謝をはじめ、生体における化学反応の概要を説明できる</p> <p>糖質、脂質およびタンパク質が体内でどのように合成・代謝されているかを説明できる。</p> <p>歯を中心とする口腔組織の構成成分と機能を説明できる</p> <p>歯の石灰化と脱灰を説明できる。</p> <p>プラークの種類と形成過程を理解し、う歯との関わりを説明できる。</p> <p>歯周疾患の免疫機構を説明できる。</p>				
学習上の注意事項	<p>歯科治療活動の一環として、食生活の改善を必要とする対象者に対し、系統的に、かつ、科学的な指導ができるように、裏付けとなる基礎知識を含めて学習する。</p> <p>単に記憶使用とするのではなく、代謝に代表されるような、生体における化学反応の相互関連を理解しながら、論理的に学習する。</p> <p>自分の体で起きている生命現象の面白さを実感してもらいたい。</p>				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 生化学・口腔生化学				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	生化学・口腔生化学と歯科衛生士 人体の構成要素
2	人体における化学反応 糖質,脂質タンパク質の代謝
3	糖質,脂質タンパク質の代謝の相互作用 遺伝子とタンパク質合成 人体における恒常性の維持
4	歯と歯周組織の生化学
5	硬組織の生化学 唾液の生化学
6	プラークの生化学



科目名	組織発生学	年次	1	単位	1
				時間数	24
講師名	嶋田 済	授業形態	講義	授業回数	6
到達目標	<p>人体の体表をおおう皮膚と体内の器官の内腔を形成する粘膜について知り、口腔組織を理解する。</p> <p>ヒトの発生の由来・口腔の発生について理解し説明できる。</p> <p>歯の組織を分解し、その性状や構造を説明できる。</p> <p>歯の発生と成長について理解し説明できる。</p>				
学習上の注意事項	組織にとらわれずポイントを絞り、組織発生学を把握する。				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学 歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	I 編 1章 細胞と組織
2	I 編 1章 細胞と組織
3	2章 発生
4	2章 発生
5	II 編 1章-2 骨の発生
6	II 編 1章-2 骨の発生
7	II 編 2章 歯と歯周組織の発生
8	II 編 2章 歯と歯周組織の発生
9	III 編 口腔の組織を理解する実習
10	III 編 口腔の組織を理解する実習

11	唾液分泌を理解する実習
12	唾液分泌を理解する実習

--

科目名	口腔解剖学①	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	佐野 和生	授業形態	講義	授業回数	8
到達目標	歯牙（永久歯・乳歯）の解剖学的特徴を理解する。 歯牙の分類・鑑別を理解する。 歯牙の異常について理解する。				
学習上の注意事項	解剖学では、ある程度の学名を暗記しなければなりません。解剖学とは人体の地図の読み方を学ぶ学問だからです。口腔解剖学は、歯科医療において役に立つよう、頸部から上のもう少し詳しい地図の学習です。 教科書の図や、スライド、顎模型で視覚的に学習すること。				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	I編 歯・口腔の構造 2章 歯の形態 ① 歯の解剖学総論 歯とは何か、歯の特徴、歯の構造、歯の種類と名称、歯の数と記号
2	I編 歯・口腔の構造 2章 歯の形態 ① 歯の解剖学総論 方向用語
3	I編 歯・口腔の構造 2章 歯の形態 ① 歯の解剖学総論 歯冠と歯根の形態
4	I編 歯・口腔の構造 2章 歯の形態 ① 歯の解剖学総論 喉頭と歯根の数、歯の左右の特徴、歯の機能、 ② 永久歯 永久歯の特徴 永久歯の形態学的特徴、
5	I編 歯・口腔の構造 2章 歯の形態、 ② 永久歯 永久歯の形態学的特徴、
6	I編 歯・口腔の構造 2章 歯の形態、 ③ 乳歯 乳歯の特徴、乳歯の機能と特色 ④ 歯の異常 歯数の異常、大きさの異常、歯の重複、歯冠の異常、歯根の異常
7	I編 歯・口腔の構造 2章 歯の形態、 ④ 歯の異常 萌出異常
8	I編 歯・口腔の構造 2章 歯の形態、 ⑤ 歯列と咬合 歯列、咬合、



科目名	歯牙解剖学	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	市波 仙光	授業形態	講義	授業回数	4
到達目標	<p>歯のスケッチでは、歯のもつ3次元的な特徴を二次元の平面上に展開図を描き、各部の名称とそれらの特徴を再確認する。</p> <p>カービングでは、歯の立体像を石膏上で製作し、歯のもつ形態を立体的に把握し、身につける。歯の模型を利用して、形態の細かな違いを判別し、歯種を鑑別する能力を養う。</p> <p>暫間被覆冠の作製では、臨床を想定して歯列模型上での製作を行い、歯牙を保護する歯冠形態を再現する。同時に、製作の手順を実地で身につけ、材料の取り扱いや器具の使用方法を習得する。</p> <p>本実習は、講義を通じて養った知識と技術を、臨床科目に応用するための段階的な実地訓練である。</p>				
学習上の注意事項	<p>まず歯の外形をイメージとして捉えて全体的な形態をつかみ、次に細部の形態まで細かく捉える。</p> <p>知識のみならず、歯の形態を理解して再現する能力を楽しみながら体で身につけていく。臨床を想定して、時間内での作製を心がける。</p>				
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他（スケッチや制作物）				
教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学				
教材	実習用資料				

授業計画	
回数	授業内容
1	歯のスケッチ
2	歯のスケッチ
3	歯型彫刻
4	歯型彫刻
5	暫間被覆冠の作製
6	暫間被覆冠の作製



科目名	口腔生理学	年次	1	単位	1
				時間数	24
講師名	鈴木 孝雄	授業形態	講義	授業回数	6
到達目標	口腔・顎・顔面などの諸器官の機能を健全に維持するために、また、これらの諸器官の機能障害を予防治療するため、歯、咀嚼、唾液分泌、味覚、口腔感覚、発生の生理についてそのメカニズムを理解する。				
学習上の注意事項	口腔内の各メカニズムをまず大筋で理解し、その後に詳細な部分を覚える。				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学				
教材					

授業計画	
回数	授業内容
1	歯・口腔の感覚
2	味覚と嗅覚
3	咬合と咀嚼・吸啜
4	嚥下と嘔吐
5	発声・発語
6	唾液



科目名	微生物学	年次	1	単位	1
				時間数	32
講師名	松浦 宙	授業形態	講義	授業回数	8
到達目標	<p>細菌、真菌、ウイルスの一般の構造、代謝、増殖機構について説明できる。</p> <p>感染症の発症に関わる病原体側の因子と宿主側の因子を列挙できる。</p> <p>宿主の免疫機構とアレルギーの機序を分類し、説明できる。</p> <p>代表的な滅菌法、消毒法、化学療法を列挙し、各種微生物に対する効果の有無を述べることができる。</p> <p>歯科診療上重要な感染症を列挙し、それらの病原体の特徴を述べることができる。</p>				
学習上の注意事項	<p>「一寸の虫にも五分の魂」ということわざがあります。直径1μm (1,000分の1mm) のブドウ球菌にも0.5μmほどの大きさの魂があるのでしょうか？みなさんの身の回りや口の中にいるさまざまな微生物は、一体、どのように生活しているのでしょうか？そんなことを想像しながら講義を受けてみてください。</p>				
評価方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()</p>				
教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 微生物学 第2版</p>				
教材	<p>プリント</p>				

授業計画	
回数	授業内容
1	<p>I 編 微生物学</p> <p>1章 微生物学の概要</p> <p>2章 感染</p>
2	<p>3章 微生物学総論</p> <p>4章 微生物の培養、観察と検査</p> <p>5章 化学療法</p>
3	<p>6章 消毒と滅菌</p>
4	<p>III 編 病原微生物学</p> <p>1章 主な病原細菌</p>
5	<p>2章 歯科に関連するウイルスとウイルス感染症</p> <p>3章 歯科に関連する真菌</p>
6	<p>4章 口腔領域の原虫</p> <p>5章 プリオン</p> <p>付章 微生物学と免疫学の歴史概要</p>
7	<p>II 編 口腔微生物学</p> <p>1章 口腔環境と常在微生物</p> <p>2章 バイオフィルムとしてのプラーク<歯垢></p>
8	<p>3章 う蝕の細菌学</p> <p>4章 歯周病の細菌学</p> <p>5章 その他の口腔感染症</p>



科目名	薬理学	年次	1	単位	1
				時間数	32
講師名	津田 真弘	授業形態	講義	授業回数	8
到達目標	<p>薬は適正に用いれば治療に役立つが、誤った使い方をすると毒にもなることを理解する。</p> <p>薬物の体内での動態（吸収、代謝、分布、排泄）を理解する。</p> <p>薬物の薬理作用を理解し、体内で効果を発揮する仕組みを理解する。</p> <p>医薬品の法的規制を理解する。</p> <p>医薬品の剤形、保存方法等を理解し、安全且つ適正に取り扱えるようになる。</p> <p>麻酔薬、鎮痛薬、止血薬、抗炎症薬および病原微生物に作用する薬物等の代表的薬品名を覚える。</p> <p>以上のことを理解し、医療チームの一員として医療過誤の防止に努められるようになる。</p>				
学習上の注意事項	薬理学の基本的知識を重点的に習得する。				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
教科書	歯科衛生学シリーズ 薬理学 第2版				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	総論①
2	総論②
3	中枢神経系と薬 末梢神経系と薬
4	ビタミン・ホルモンと薬 炎症と薬
5	免疫と薬 血液と薬
6	感染症と薬 循環、呼吸器系と薬
7	腎臓、消化器と薬 悪性腫瘍と薬

8

漢方医学と薬
その他

--

科目名	病理学	年次	1	単位	1
				時間数	32
講師名	水谷 大樹、小林 淳一	授業形態	講義	授業回数	12
到達目標	<p>病理学の基礎となる、正常細胞、正常組織の基本構造と機能を理解する。 遺伝の仕組みと遺伝性疾患、奇形の原因について理解する。 代謝障害、循環障害の病因・病態について理解する。 炎症の原因・病態について説明できる。 免疫獲得の機構および免疫疾患の病因・病態について説明できる。 腫瘍の生物学的・形態学的特徴を理解する。 歯科衛生士業務、特に予防活動に従事する際に口腔状態の正常な知識を有し、口腔に生じた疾病の原因・経過・転機・治療法を理解することでその疾病に対する対処法を説明できる。</p>				
学習上の注意事項	授業後は必ず教科書を読み復習を行って下さい。				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学				
教材	スライド				

授業計画	
回数	授業内容
1	(病理学総論) 病理学序論と病因論・遺伝性疾患と奇形・循環障害
2	代謝障害と退行性病変・増殖と修復
3	炎症と免疫応答異常
4	腫瘍
5	(口腔病理学) 歯の発育異常・歯の損傷と着色・沈着物
6	う蝕・象牙質・歯髄複合体の病変
7	歯周組織の病態
8	口腔粘膜の病変
9	口腔領域の嚢胞と腫瘍・口腔癌
10	顎骨の病変・唾液腺の病変

11	口腔領域の奇形（形成異常）・口腔組織の加齢変化
12	まとめ

科目名	口腔衛生学・統計①	年次	1	単位	2
				時間数	32
講師名	中廣 剛士 吉田 恵美	授業形態	講義	授業回数	10
到達目標	<p>一般目標 個人および集団に対する歯科予防処置、歯科保健指導を実施するための口腔保健に関する基礎的な知識を習得する。</p> <p>行動目標</p> <p>①口腔衛生の意義のについて説明できる。 ②口腔衛生の正常な発育と機能について説明できる。 ③口腔の付着物および沈着物について列挙し、説明できる。 ④口腔清掃法および用具について列挙し、説明できる。 ⑤歯磨剤および洗口剤の機能と成分について説明できる。 ⑥ウ蝕の発病機序と予防法について説明できる。 ⑦ウ蝕予防におけるフッ化物応用について説明できる。 ⑧統計ではデータと情報の違いを理解し説明できる。 ⑨疫学の定義を説明できる。 ⑩ウ蝕の指数・口腔清掃状態の指数を説明できる。</p>				
学習上の注意事項	<p>口腔衛生学は基礎科目および臨床科目を総合的にまとめた社会歯科学に分類されるので、他科と重複する部分があるが、口腔保健全体として整理して学習すること。</p> <p>衛生統計では、苦手意識の強い数式を払拭し、現代のニーズにあった保健情報の考え方ができるように学習する。指数については他科と重複する。</p>				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 保健生態学 歯科衛生学シリーズ 保健情報統計学</p>				
教材					

授業計画	
回数	授業内容
1	<p>総論</p> <p>歯・口腔の健康、構造と機能 歯・口腔の発生と成長・発育</p>
2	<p>歯・口腔の機能</p> <p>口腔の健康と全身の健康 歯・口腔の付着物・沈着物</p>
3	<p>口腔清掃</p> <p>歯磨剤と洗口液・洗口剤</p>
4	<p>ウ蝕の疫学（ウ蝕の予防・発生要因）</p>
5	<p>ウ蝕活動性試験、フッ化物応用</p>

6	まとめ
7	歯科疾患の指数 ウ蝕の指数
8	歯科疾患の指数 ウ蝕の指数
9	歯科疾患の指数 口腔清掃状態
10	歯科疾患の指数 口腔清掃状態

科目名	衛生学・公衆衛生学①	年次	1	単位	1
				時間数	28
講師名	坂部 敬子	授業形態	講義	授業回数	7
到達目標	<p>人間の健康を集団・一生・予防の視点で捉えることができる。</p> <p>環境問題を地球規模で考えることができるようになる。</p> <p>わが国における少子高齢化等、地域保健における歯科衛生士としての役割の重要性を学ぶ。</p>				
学習上の注意事項	身近な最新の公衆衛生情報に関心を持ち、新聞や広報紙にも目を通すようにする。				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 保健生態学				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	I 編 健康を左右する環境 1章 総論 2章 疫学
2	3章 人口 4章 健康と環境
3	5章 感染症 6章 食品と健康
4	III 編 健康に関わる地域の役割 1章 地域保健・公衆衛生
5	2章 母子保健 3章 学校保健
6	4章 成人保健 5章 産業保健
7	6章 高齢者保健 7章 精神保健 8章 国際保健

科目名	歯科衛生概論①	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	春木 かおり 吉田 恵美	授業形態	講義	授業回数	6
到達目標	歯科保健医療の概念を会得し、歯科衛生士業務を遂行するために、その業務内容、倫理、チーム医療等の連携を理解する				
学習上の注意事項					
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他（レポート）				
教科書					
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	歯科衛生過程の進め方（歯科衛生アセスメント）
2	歯科衛生過程の進め方（歯科衛生アセスメント）
3	臨床見学実習
4	臨床見学実習で学んだことをグループワーク、発表

科目名	保存修復学	年次	1	単位	1
				時間数	28
講師名	鈴木 康紘	授業形態	講義	授業回数	7
到達目標	<p>保存修復学の歯学における位置を明確にし、歯の硬組織疾患に対する診査、診断、治療計画に基づき、保存修復の原理と方法を教え、これによって審美性にも考慮した歯の解剖的形態ならびに顎口腔機能の回復と調和を図る必要のあることを理解、習得させる。</p> <p>歯の状態を理解し、それらに生じる疾患の概要と治療の進め方の基本を習得する。処置による歯髓組織への影響を理解する。</p> <p>脂質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。</p>				
学習上の注意事項	<p>授業は教科書に沿って進めるので、教科書に重要な箇所をマークするように。</p> <p>私語は厳禁とする。</p>				
評価方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()</p>				
教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 保存修復・歯内治療</p>				
教材					

授業計画	
回数	授業内容
1	<p>I 編 歯の保存療法とは</p> <p>1章 歯の保存療法の種類</p> <p>2章 口腔診査（歯および歯周組織）</p>
2	<p>II 編 保存修復</p> <p>1章 保存修復の概要</p> <p>2章 直接法修復</p>
3	<p>II 編 保存修復</p> <p>3章 間接法修復</p>
4	<p>II 編 保存修復</p> <p>3章 間接法修復</p>
5	<p>II 編 保存修復</p> <p>4章 保存修復における歯科衛生士の役割 グループワーク、発表</p>
6	<p>II 編 保存修復</p> <p>5章 保存修復における歯科衛生士の役割 グループワーク、発表</p>
7	<p>まとめ</p>

科目名	歯周療法学①	年次	1	単位	1
				時間数	24
講師名	瀧波 宏至	授業形態	講義	授業回数	6
到達目標	<p>前期の他科目等で学んだ歯周組織および歯周病について知識を整理する。 歯周組織および歯周病への理解を高める。 歯周治療における診査・診断について基本的な考え方、方法等を学び理解する。 歯周病治療の基本と各種方法を理解する。 実際の歯周病治療における歯科衛生士としての役割を理解する。 歯科衛生士として、臨床における歯周治療に積極的に参加し活躍できる知識と実力を習得する。</p>				
学習上の注意事項	<p>教科書等の文章・単語の暗記に終始することなく、歯周治療学の理解に努める。 予習・復習を行い、講義内容の理解度が向上するように努める。 講義後ごとの課題レポート等は、遅滞なく講義当日の内に作成し、新鮮な知識の習得に努める。 講義は真摯かつ積極的な態度で受講し、疑問点は質問等により速やかに解決を図る。</p>				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯周病学				
教材					

授業計画	
回数	授業内容
1	I 編 歯周治療の基礎知識 1章 歯周治療とは 2章 正常な歯周組織の構造と機能
2	3章 歯周病の分類と原因
3	II 編 歯周治療の実際 1章 歯周治療の進め方
4	2章 歯周疾患の診査
5	3章 歯周基本治療
6	III 編 歯周治療における歯科衛生士の業務 1章 歯周治療における歯科衛生士の役割

科目名	口腔外科学①	年次	1	単位	1
				時間数	24
講師名	佐野 和生	授業形態	講義	授業回数	12
到達目標	<p>口腔外科とは何か、その重要性を理解する。</p> <p>口腔外科的疾患を理解する。</p> <p>患者の全身状態を理解し、緊急事態に対処できる。</p>				
学習上の注意 事項	<p>教科書などに記載されている基本事項を理解し、その上で応用を考える。</p> <p>どのような歯科医院に勤務しても“口腔外科”の知識は必要である。</p>				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版</p>				
教材					

授業計画	
回数	授業内容
1	I 編 顎口腔領域の疾患 1 章 口腔外科学の概要
2	2 章 先天異常と発育異常
3	3 章 損傷
4	4 章 口腔粘膜疾患
5	5 章 炎症 6 章 嚢胞
6	7 章 腫瘍および腫瘍類似疾患
7	8 章 顎関節疾患
8	9 章 唾液腺疾患
9	10 章 神経系疾患
10	11 章 血液疾患

11	1 2章 口腔心身症
12	IV編 口腔外科治療の実際 1章 周術期における口腔健康管理（総論） 2章 周術期における口腔健康管理の実際（各論）

科目名	歯科予防処置実習①	年次	1	単位	3
				時間数	96
講師名	上村 愛実 深川 さやか	授業形態	講義 実習	授業回数	24
到達目標	<p>一般目標：歯科予防処置実習に必要な基本的知識・技術・態度を習得する。</p> <p>到達目標①歯科予防処置の歯科衛生士の役割、心構え、考え方を述べることができる。</p> <p>②歯肉炎、歯周病を予防するための処置を述べることができる。</p> <p>③歯科予防処置に用いる器具の名称、用途を説明できる。</p> <p>④手順に沿って安全に配慮した施術ができる</p> <p>⑤清潔・不潔の概念に基づいた行動ができる。</p> <p>⑥患者の状態に配慮した対応ができる。</p>				
学習上の注意事項	時間を守り、身だしなみを整え、忘れ物がないように常に心がけること。				
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他（身だしなみ、提出物、提出物） 実技試験80% その他20%				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 ポイントチェック⑤				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	口腔内カメラ（相互実習）
2	予防処置実習とは シクルスケーラーについて
3	ミラーテクニック 前腕回転運動、手根関節運動
4	上顎3～3頬側、下顎3～3頬側スケーリング
5	上顎3～3口蓋側、下顎3～3舌側スケーリング
6	シクルスケーリングの試験の説明、練習
7	シクルスケーリング練習、模擬試験
8	シクルスケーリング練習、模擬試験
9	シクルスケーリング試験
10	シクルスケーリング試験

11	シャープニング 相互実習復習
12	上下顎プロービング（マネキン実習）
13	下顎プロービング（相互実習）
14	上顎プロービング（相互実習）
15	上下顎歯面研磨（マネキン実習）
16	下顎歯面研磨（相互実習）
17	上顎歯面研磨（相互実習）
18	下顎プロービング、下顎3～3シクル、ジャケットスケーリング（相互実習）
19	上顎プロービング、上顎3～3シクル、ジャケットスケーリング（相互実習）
20	下顎染め出し、ブラッシング指導、歯面研磨（相互実習）
21	上顎染め出し、ブラッシング指導、歯面研磨（相互実習）
22	超音波スケーラーとエアスケーラー、歯面清掃（講義）
23	全顎染め出し、ブラッシング指導、歯面研磨（相互実習）
24	全顎染め出し、ブラッシング指導、歯面研磨（相互実習）

科目名	歯科保健指導総論	年次	1	単位	1
				時間数	24
講師名	春木 かおり	授業形態	講義	授業回数	10
到達目標	<p>一般目標 ライフステージに対応した歯科衛生介入に必要な知識を習得する。</p> <p>行動目標 ①各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。</p> <p>②各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。</p> <p>③各ライフステージ別の食生活指導ができる。</p>				
学習上の注意事項	<p>ポイントを絞り、保健指導論総論の全体像を把握する。</p> <p>教科書の図、臨床写真により視覚的に学習する。</p>				
評価方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()</p>				
教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 ポイントチェック⑤</p>				
教材	<p>プリント</p>				

授業計画	
回数	授業内容
1	ライフステージに対応した歯科衛生介入 妊産婦期
2	新生児期①
3	新生児期② 幼児期
4	学齢期
5	思春期・青年期
6	成人期①
7	成人期②
8	老年期①
9	老年期②
10	要介護高齢者①

11	要介護高齢者②
12	障害者 大規模災害被災者

科目名	歯科保健指導実習①	年次	1	単位	1
				時間数	32
講師名	吉田 恵美	授業形態	講義	授業回数	8
到達目標	歯科保健指導および歯科衛生教育の基礎知識と技法を習得する。 自己の健康管理をするために必要な知識・態度を身につける。				
学習上の注意事項	知識や情報の収集に心がける				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 歯科衛生学シリーズ 保健生態学 ポイントチェック⑤				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	歯科保健指導論の概要、口腔の基礎知識
2	口腔内の付着物 ウ蝕・歯周病について
3	食品とウ蝕誘発性 歯周病と食生活
4	特別用途食品と保健機能食品について 口腔の器質的問題の把握 TCI
5	歯科衛生介入としての歯科保健指導 ブラッシング方法 その他の清掃方法（フロス、歯間ブラシ）
6	その他の清掃方法（洗口液、タフトブラシ、保湿剤、口腔ケア用品） 口腔機能に関わる指導
7	口腔清掃状態の指数（PCR、OHI、OHI-S） 歯周の指数 染め出し
8	歯科保健指導発表

科目名	栄養学	年次	1	単位	2
				時間数	32
講師名	北山 富士子	授業形態	講義	授業回数	16
到達目標	<p>栄養素の働きを知り、消化・吸収の概略について捉える。</p> <p>栄養素を摂取する食生活の現状についてよく認識し、どのような点に問題点があり、注意すべきかを把握する。</p> <p>日本人の食事摂取基準の意味と意義を理解し、1人ひとりに適した推定エネルギー必要量の求め方を身につける。さらに、生活活動、運動などによる消費エネルギーの必要性と必要量の求め方を身につける。</p> <p>歯科臨床の場における食事指導の必要性を十分に理解する。</p> <p>特殊患者への指導法を身につける</p>				
学習上の注意事項	<p>口腔内を含めた健康は、生活習慣他、さまざまな栄養素が相互に関係し合いながら保たれていることを理解すること。</p> <p>教科書のみならず、乳幼児、高齢者、特殊患者の栄養指導法を学習すること</p>				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 栄養学 プリント				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	1章 栄養学と歯科衛生士 ①栄養の概念
2	②栄養と食生活の意義 ③歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義
3	2章 栄養素の種類とはたらき ①糖質
4	②脂質
5	③タンパク質
6	④ビタミン
7	⑤ミネラル
8	⑥食物繊維 ⑦水
9	3章 栄養素の消化吸収 ①消化吸収と栄養～⑤栄養素の体内動態
10	⑥栄養素別の消化・吸収

11	4章 健康と栄養
12	5章 食事と食品 ①食事の基本 ②食事バランスガイド
13	③食品群の分類と特徴 ④食品の機能
14	⑤食品の表示
15	⑥食品の調理
16	7章 栄養ケア・マネジメント

科目名	歯科材料学	年次	1	単位	1
				時間数	24
講師名	岡田 好広	授業形態	講義	授業回数	12
到達目標	<p>到達目標：歯科材料の素材を説明できる。</p> <p>金属材料の一般的特徴を説明できる。</p> <p>無機材料の一般的特徴を説明できる。</p> <p>有機材料の一般的特徴を説明できる。</p> <p>口腔内と口腔外で使用する歯科材料の性質を説明できる。</p> <p>歯科材料の所要性質を説明できる。</p> <p>歯科材料の評価について説明できる。</p>				
学習上の注意事項	<p>歯科材料を扱う場合、安全性や特性、成分、取り扱いなど十分に熟知しなければならない。特に歯科衛生士は歯科予防処置、歯科診療の補助において、歯科材料の正確な取り扱いや注意事項を十分に理解する必要がある。</p>				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 歯科材料</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科機器</p>				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	歯科材料と歯科衛生士
2	歯科材料の基礎知識
3	歯科衛生に関わる材料①
4	歯科衛生に関わる材料②
5	印象材
6	模型材料
7	合着材、接着材
8	成形修復材
9	仮封材
10	ワックス

11	金属 セラミックス
12	その他材料

科目名	歯科診療補助基礎	年次	1	単位	1
				時間数	20
講師名	深川 さやか 上村 愛実	授業形態	講義	授業回数	9
到達目標	一般目標 歯科衛生士の業務内容を理解し、必要な基本的知識を習得する。 到達目標 ①医療安全の概念とその対策を説明できる。 ②滅菌、消毒、戦場の定義、方法を説明できる。 ③歯科診療設備について説明できる。 ④共同動作の概念を述べることができる。 ⑤バキュームの基本動作を説明できる。 ⑥救命処置について理解する。				
学習上の注意事項	講義は真摯かつ積極的な態度で受講し、疑問点は質問等により速やかに解決を図る。				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯科機器				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	歯科衛生士の業務 歯科診療補助の概念 手指衛生について
2	医療安全と感染予防 ハインリッヒの法則、スタンダードプレコーションについて 手指衛生について
3	リスクアセスメント (感染対策分類) 滅菌、消毒、洗浄の定義 滅菌法について
4	消毒法 (3要素、方法、消毒薬) 洗浄 (超音波、ウォッシャーディスインフェクター) 医療廃棄物の取り扱い
5	歯科診療室の基礎知識 ユニットの名称と用途
6	歯科診療所における患者対応の基本 共同動作の概念 術者、補助者、患者のポジショニング、ライティング
7	バキュームテクニック 目的、種類、持ち方、位置 卓上で演習
8	スリーウェイシリンジテクニック ラバーダム防湿

9	歯科診療補助実習①事前講義
10	歯科診療補助実習①事前講義

科目名	歯科診療補助実習①	年次	1	単位	3
				時間数	96
講師名	上村 愛実 吉田 恵美 深川 さやか 春木 かおり	授業形態	講義	授業回数	24
到達目標	歯科衛生士の業務を述べることができる。 歯科治療で使用する器具・用途を述べることができる。 歯科治療に必要な器材を準備することができる。 対象に応じた患者対応ができる。				
学習上の注意 事項	幅広い知識や情報の収集を心がける。 予習復習を心がけ、知識および技術を習得する。				
評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他(身だしなみ、提出物、修学態度) 実技試験 50% 身だしなみ、提出物、修学態度50%				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 歯科衛生学シリーズ 歯科機器				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	歯科診療用設備の取り扱い・患者誘導・ポジショニング実習
2	本校の滅菌・消毒
3	口腔内洗浄・バキューム操作
4	医療面接・口腔内概診
5	各部位のバキューム操作
6	合着材・仮着材
7	仮封材
8	印象採得（練和）
9	印象採得（マネキン）
10	印象採得（マネキン）

11	印象採得（相互実習）
12	印象採得（相互実習）
13	印象採得（相互実習・石膏注入）
14	印象採得（相互実習・石膏注入）
15	電気エンジンの取り扱い
16	歯肉圧排、寒天印象、ゴム質印象（卓上）
17	歯肉圧排、寒天印象（マネキン）
18	歯肉圧排 ゴム質印象（マネキン）
19	外科器具
20	CR
21	ラバーダム防湿（卓上）
22	ラバーダム防止（マネキン）
23	Tec（右下6）
24	Tec（前歯部ブリッジ）

科目名	臨床検査	年次	1	単位	1
				時間数	24
講師名	川崎 哲子	授業形態	講義	授業回数	6
到達目標	<p>歯科衛生士として、病体を理解し検査データの表す意味、正常値を理解すること。 患者さんに対応する歯科衛生士としてどのような臨床検査があり疾患と正常値などの基礎知識を理解すること 各検査の手順を理解する。 臨床検査の目的、実施内容及びデータを正しく理解する。 各検査が安全かつ正確にできる様な補助を習得する。 主な疾患と来院時の注意点を理解する。</p>				
学習上の注意事項					
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科衛生学シリーズ 臨床検査				
教材					

授業計画	
回数	授業内容
1	臨床検査と歯科衛生士の役割 生理機能検査
2	血液学的検査 感染症の検査
3	感染症の検査 免疫・血清学的検査 自己免疫疾患とは
4	病理学的検査 画像検査
5	生体検査 体温、脈拍、血圧測定、測定実習
6	検体検査 血液型の判定、出血時間、尿検査 実習



科目名	感染予防学	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	佐野 和生 西村 一美 廣澤 佑太	授業形態	講義	授業回数	5
到達目標	<p>細菌の予防と治療の基礎を理解する。</p> <p>病原性と感染成立の機序並びにそれに対する対処法を理解する。</p> <p>歯科医療・口腔保健現場において重要な感染症に対する知識および滅菌・消毒の理論と方法を理解する。</p>				
学習上の注意事項					
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他 ()				
教科書	歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト滅菌・消毒・洗浄				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	西村先生 洗浄・消毒・滅菌 血液曝露対策、流行性ウイルス性疾患の免疫獲得 演習（手袋、エプロンの着脱）
2	廣澤先生 医療施設における感染対策の必要性 感染対策における基本的な考え方 標準予防策
3	メーカー実習(Medicom)
4	佐野先生 感染予防対策の基本 歯科医療における滅菌・消毒・洗浄
5	歯科医院における感染予防対策 歯科医院における感染予防対策の実際 歯科医療従事者の感染予防対策



科目名	食事支援	年次	1	単位	1
				時間数	16
講師名	北山 富士子	授業形態	講義 実習	授業回数	8
到達目標	年代別に合わせた身体的特徴を理解する。 乳幼児・高齢者の問題点や注意すべき点を明確にし調理に工夫を加える。 実習や試食を通して対象者の身体状況や口腔機能の理解を深める。				
学習上の注意事項	調理の工夫・増粘剤の使用、食器の工夫等を学んでもらいたい。 食材の調理方法を習得し生活の中で活用出来るようにしてもらいたい。 離乳食と高齢者の違いを学んでもらいたい。				
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> その他（レポート）				
教科書	歯科衛生学シリーズ 栄養学				
教材	プリント				

授業計画	
回数	授業内容
1	妊娠期・授乳期における栄養
2	乳児期における栄養
3	人工栄養・離乳食の実習
4	幼児期・学童期・思春期における栄養
5	成人期における栄養
6	生活習慣病対策の実習
7	高齢期における栄養
8	高齢者食の実習

